

医療資源情報の有効事例

～地域の取り組みについて～

東京歯科大学口腔健康学講座
摂食嚥下リハビリテーション研究室 非常勤講師
厚生労働省長寿医療研究班 委員
齋藤 貴之

地域の有効事例

- ・ 現在の摂食嚥下リハを取り巻く環境について
- ・ 多職種連携に向けた取り組み
(こばやし歯科クリニック・暮らしの保健室かなでの取り組み)
- ・ 多職種連携に向けた取り組み②
(江戸川区嚥下医療資源マップ先行事業の概要と今後)

摂食嚥下障害の病態はさまざま

実際、診療しているモデルケース

居宅在住
原因疾患は脳梗塞 (薬剤による摂食嚥下障害はない)
+ 低栄養や筋力低下
意思の疎通はしっかり出来てリハビリも可能な摂食嚥下障害
周辺環境 家族は治療に協力的

摂食嚥下リハを取り巻く環境の全体的なイメージ

A: 軽度障害者と病院(入院時) C: 病院と地域(退院時の情報)
B: 軽度障害者と地域医療機関 D: E: 地域在住障害者と地域医療機関

平成26年度厚生労働科学研究費補助金(長寿・障害総合研究事業) ヒアリング資料

問題点

その結果として必要な人に必要な医療が行き渡っていない。
→回復する可能性のある人が放置されている

胃瘻から経口移行によるQOL、ADLの向上。デイサービスへの参加、5年ぶりの外食

なかなか医療の手が差し伸べられていない現状

脳梗塞を発症、急性期病院から転院したリハビリテーション病院で胃瘻を造設

その後、担当医より摂食嚥下リハの存在を紹介されるも医療機関の紹介はなし

家族が医療機関を検索するもうまくいかず(その間2年間、治療がとぎれる)

たまたま目にした新聞記事から戸原先生に連絡、その後、胃瘻が診察

2015年10月15日(木)産経新聞より

医療機関に繋げるために整備すること

- ①たまたま新聞記事を目にした
→**摂食嚥下リハの認知度をあげる啓蒙活動**
- ②戸原先生(専門医療機関)とコンタクトがとれた
→**どこに医療機関があるか検索できる**
- ③専門医療機関から紹介先(地域で摂食嚥下リハに取り組む医院)が存在し、コンタクトがとれる環境にあった
→**問い合わせされた病院から地域のクリニックまでの連絡が可能**

厚生労働省長寿医療研究地域包括ケア班(戸原班)で地域連携ガイドブックを作成

<http://www.swallowing.link/wp-content/uploads/2016/06/07a25f3aee070d262f5df4ce03286348.pdf>

多職種連携を進めるためのステップ

- 自分(クリニックの整備)
 - ・ 勉強会への参加
 - ・ 周辺環境の整備
 - ・ 患者さんの共有
- 他の職種とコンタクトをとり顔の見える関係を作る
 - ・ 勉強会の開催
 - ・ 患者さんの共有(施設レベル)
- 多職種で連携し、地域ぐるみで支える
 - ・ 連携の拠点づくり
 - ・ 多職種を巻き込んだ共同事業
 - ・ 地域資源の『見える化』

摂食嚥下リハを学ぶ

- 勉強会への参加
 - ・ 老年歯科学会プログラム(ハンスオン)
 - ・ 摂食嚥下リハ学会(エラーニング)
 - ・ 各種勉強会
- 指導医の下でのOJT
- 独力での診療



地域で患者さんを共有

- ・ 迅速な対応
- ・ 診療場面への参加
- ・ 申し送り症例検討
- ・ 報告書の作成
- ・ キーパーソンの存在

在宅での内視鏡検査の様子
歯科だけでなく、家族、ケアマネ、看護師、PT、STに立ち会ってもらい、その場で治療計画を立案している。

内視鏡検査の結果をもとに作成された身体リハビリメニューの一例

バイエリア連携の会

バイエリア連携の会の様子

連携の会のHP.
中央区、江東区、江戸川区、葛飾区、浦安市、市川市の医療連携を推進している

多職種（医師、歯科医師、看護師、介護職、病院CW）が集まる。勉強会（バイエリア連携の会）を定期的で開催している。地域の社会資源作りや摂食嚥下リハビリテーションの啓蒙活動を行う。

介護施設での多職種連携（NST 日常ケアの共有）




施設での口腔ケア実習の様子

NSTチーム。構成メンバーは医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、訪問マッサージ士、施設スタッフ

多職種で連携し、地域ぐるみで支える

- 連携の拠点づくり
→ **暮らしの保健室かなで**
- 多職種を巻き込んだ共同事業
・ 地域資源の『見える化』
→ **医療資源マップ江戸川先行事業**




暮らしの保険室かなで 3つの柱 7つの事業

さまざまな専門職の交流の拠点として

- 地域連携の事務局の設置
- 各種セミナーの開催

住民主体の街づくりをサポート

- いきいき健康教室
- フレイル予防講座
- 「耕す・食べる」体験農業講座

社会資源の発掘と地域への情報発信

- かなで通信の発行
- 医療資源マップ作製（見える化）
- 地域のお祭り、行事への参加

人が集まるには拠点（ハブ）にしよう






食支援に取り組む企業のサポート





企業・地域住民・専門職（管理栄養士）によるスマイルケア食の試食会

Otsuka 大塚製薬 welcia ウェルシア [摂食回復支援食] あい七


企業活動のサポート。地域住民にも協力してもらい、現場に必要な商品やサービスを作り出していく。

地域と一緒にフレイルを予防する取り組み

大学（東大 飯島准教授）と地域住民とでオールフレイル予防のための取り組みをおこなっている。『しっかり咬んで、しっかり食べ、しっかり動く、そして社会参加を！』

必要な人に適切な医療が届く社会へ



医療（診療など）を受けたいと思っても、NHKおはよう日本より

高齢者の生活圏下・圏上に居住する地域包括ケアについての研究

Edo Medical Resource Map

医療資源マップの内容を充実させる。
サイトを検索＝医療機関に繋がるような社会インフラへ

作成した医療資源マップの問題点

- 学会での呼びかけによる手上げ制で作成したので **医療機関がもれてしまっている可能性がある。**
- **インターネットを使えない層にアプローチ出来ていない。**
- **地域の中で作成した医療資源マップをどう活用するか**ということまでは検討されていない。

問題点の解決のために

- **まずは全数調査を行なう**
- **誰でも見れる紙ベースのパンフレット作製を**ゴールとする
- **多職種からなる会議体を発足させ、**医療資源マップ作製の活用法を視野にいれながらプロジェクトを進める。


会議体の発足（構成メンバー）

各職域団体代表

- 医師会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- ケアマネージャー協会
- 訪問看護連絡会
- 介護事業者連絡会

関連団体


- 江戸川区議会
- ベイエリア連携の会
- 江戸川区役所（オブザーバー）




	日時	議題
第1回	平成27年4月7日	研究の趣旨及び事業説明・今後の方針・0次調査について
第2回	平成27年7月13日	0次調査の結果・1次調査について・アンケート調査項目について
第3回	平成27年10月19日	1次調査結果・2次調査について
第4回	平成28年1月18日	2次調査結果について
第5回	平成28年4月4日	パンフレットの掲載内容について

全数調査実施プロセス

1次調査
各職域ごとに調査
調査責任者 各職域団体責任者
調査方法 FAX



2次調査
1次調査の結果をもとに対象を抽出
調査責任者 医療資源マップ作成事務局
調査方法 調査票を送付し、結果を事務局で集計


1次調査



対象
東京都江戸川区内の全1666件の医療機関及び介護施設

結果
211施設（医療機関、介護施設）が摂食・嚥下障害に対応していると回答（12.6%）


2次調査



対象
1次調査で摂食・嚥下障害に対応していると回答した211施設（医療機関、介護施設）

調査方法
医療資源マップ事務局より調査票を送付し、回収、集計を行う

**嚥下内視鏡検査（VE）
嚥下造影検査（VF）に対応している医療機関**




	嚥下内視鏡検査		嚥下造影検査	
	実施している	他機関に紹介している	実施している	他機関に紹介している
医科医療機関	2件	1件	1件	2件
歯科医療機関	3件	5件	1件	5件
訪問看護施設	0件	3件	0件	1件

抽出した問題点と本調査後の改善点

- ・学会での呼びかけによる手上げ制で作成したので医療機関がもれてしまっている可能性がある。
→今回、全数調査を行った。
- ・インターネットを使えない層にアプローチ出来ていない。
→今後パンフレットを作成し、公共施設等に設置予定である。
- ・地域の中で作成した医療資源マップをどう活用するかということまでは検討されていない。
→現在、まだ検討中である。

江戸川医療資源マップ



ご清聴ありがとうございました。



暮らしの保健室かなで
江戸川区松島3-41-10
saitot@kanade.tokyo